

NEWS LETTER

14時30分解禁

2023年6月 全国百貨店売上高概況

2023年7月24日

I. 概況

1. 売上高総額	4,412億円余
2. 前年同月比(増減率)	7.0%(店舗数調整後/16か月連続プラス)
3. 調査対象百貨店	70社 181店 (2023年5月対比±0店)
4. 総店舗面積	4,745,273㎡ (前年同月比:-3.4%)
5. 総従業員数	52,214人 (前年同月比:-6.9%)
6. 3か月移動平均値	11-1月 7.1%、12-2月 11.2%、1-3月 14.6%、 (店舗数調整後) 2-4月 12.4%、3-5月 8.3%、4-6月 7.3%

[参考] 2022年6月の売上高増減率は11.7%(店舗数調整後)

【特徴】

6月の売上高は7.0%増と16か月連続のプラスとなった。コロナ前の2019年比では5.1%減と前月とほぼ同水準で推移しており、回復基調は続いている。

上旬は、台風や大雨による影響も見られたが、中旬以降の気温上昇や、外出機会増加、旅行ニーズなどにより、衣料品・服飾雑貨、化粧品が夏物商材を中心に好調に推移した。増勢が続く高付加価値商材に加え、円安効果と入国制限終了から高伸するインバウンドも売上を押し上げた。入店客数は3.5%増(16か月連続)、2019年比では19.7%減となった。

顧客別では、インバウンドが、一段と高い伸びを見せ(前月比71.2ポイント上昇)320.3%増(15か月連続/シェア6.4%)、売上高280億円と、コロナ禍の2020年2月以降、最高額となった。2019年比でも0.8%減となり、ほぼコロナ前の水準に戻っている。国内市場は1.8%増(16か月連続/シェア93.6%)、2019年比5.3%減となった。

地区別では、インバウンドと高額商材が好調な都市(10都市/21か月連続)が、9地区で前年実績を超え、10.1%増と二桁伸びを示したが、地方(10都市以外の7地区/2か月連続)は1.9%減となった。

商品別では、主要5品目のうち4品目で前年をクリアし、身のまわり品(10.4%増)と雑貨(12.0%増)は二桁伸びを示した。好調が続くラグジュアリーブランドや時計、宝飾など高額商材の他、化粧品(18.7%増)は、インバウンド需要に加え、メイクアップやUV関連商品が好調で、伸び率は前月よりさらに2.9ポイント上昇した。バッグ、靴、旅行用品の他、傘などレイングッズも好調だった。主力の衣料品は、ジャケット、カットソー、ワンピースなど夏物衣料を中心に動き、クリアランスも好調な滑り出しを見せている。食料品は、物産展などの食品催事や手土産需要から菓子、惣菜が引き続き好調だった。父の日商戦では、酒類や銘菓、カジュアルウェアなどが動いた。中元商戦前半は、各社、堅調に推移している。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「6月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇気温は北・東日本でかなり高く、西日本で高かった。降水量は東日本日本海側と東日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側と北・西日本太平洋側で多かった。日照時間は北日本太平洋側で多かった。

(2) 営業日数増減 29.9日(前年同月比 ±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 8日(〃 ±0.0日)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数107店舗)

①増加した：46店、②変化なし：34店、③減少した：27店

(5) 6月歳時記(父の日、中元)の売上(同上/有効回答数76店舗)

①増加した：10店、②変化なし：49店、③減少した：17店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2023年6月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	441,231,061	100.0	7.0 (6.5)
10都市	337,168,481	76.4	10.1 (9.8)
札幌	11,445,211	2.6	9.3
仙台	5,849,334	1.3	-0.7
東京	136,056,773	30.8	10.0
横浜	27,938,743	6.3	0.6
名古屋	30,150,308	6.8	9.2
京都	19,314,008	4.4	13.2
大阪	69,940,285	15.9	14.8
神戸	11,271,066	2.6	16.9
広島	7,673,612	1.7	1.2 (-8.5)
福岡	17,529,141	4.0	12.0
10都市以外の地区	104,062,580	23.6	-1.9 (-2.9)
東北	4,192,753	1.0	-6.3
関東	47,602,599	10.8	-1.4 (-3.1)
中部	7,516,296	1.7	-3.5
近畿	14,946,478	3.4	-2.0
中国	8,433,052	1.9	-3.2
四国	5,629,079	1.3	-1.5
九州	15,742,323	3.6	-0.4

注) 2023年2月より、北海道の1店舗を地区区分10都市の札幌に合算しております。

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	441,231,061	100.0	7.0 (6.5)
紳士服・洋品	23,801,881	5.4	5.8 (5.4)
婦人服・洋品	78,799,674	17.9	11.6 (11.3)
子供服・洋品	5,506,035	1.2	1.3 (0.7)
その他衣料品	6,351,375	1.4	-4.3 (-4.9)
衣 料 品	114,458,965	25.9	8.8 (8.4)
身のまわり品	70,276,740	15.9	10.4 (9.7)
化粧品	37,183,644	8.4	18.7 (18.4)
美術・宝飾・貴金属	40,412,396	9.2	8.7 (8.6)
その他雑貨	11,751,931	2.7	4.3 (3.3)
雑 貨	89,347,971	20.2	12.0 (11.7)
家 具	3,713,430	0.8	-2.4 (-3.2)
家 電	1,232,186	0.3	9.0 (9.0)
その他家庭用品	9,660,817	2.2	-3.4 (-3.9)
家 庭 用 品	14,606,433	3.3	-2.2 (-2.7)
生 鮮 食 品	21,788,794	4.9	-0.9 (-2.0)
菓 子	36,472,523	8.3	3.7 (3.2)
惣 菜	27,229,238	6.2	2.7 (2.3)
その他食料品	40,596,658	9.2	-1.5 (-2.2)
食 料 品	126,087,213	28.6	0.9 (0.3)
食 堂 喫 茶	10,203,278	2.3	9.7 (9.3)
サ ー ビ ス	4,033,533	0.9	4.9 (4.2)
そ の 他	12,216,928	2.8	13.7 (13.5)
商 品 券	10,870,426	2.5	-7.9 (-8.3)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

1. 10都市売上動向	10.1% (店舗数調整後／21か月連続プラス)
2. 10都市以外の地区売上動向	-1.9% (店舗数調整後／2か月連続マイナス)

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
10都市	10.1	7.5	21か月連続プラス
札幌	9.3	0.2	16か月連続プラス
仙台	-0.7	-0.0	2か月連続マイナス
東京	10.0	3.0	22か月連続プラス
横浜	0.6	0.0	2か月ぶりプラス
名古屋	9.2	0.6	21か月連続プラス
京都	13.2	0.5	21か月連続プラス
大阪	14.8	2.2	21か月連続プラス
神戸	16.9	0.4	16か月連続プラス
広島	1.2	0.0	2か月ぶりプラス
福岡	12.0	0.5	21か月連続プラス
10都市以外の地区	-1.9	-0.5	2か月連続マイナス
東北	-6.3	-0.1	2か月連続マイナス*
関東	-1.4	-0.2	2か月連続マイナス
中部	-3.5	-0.1	2か月連続マイナス
近畿	-2.0	-0.1	7か月ぶりマイナス
中国	-3.2	-0.1	2か月連続マイナス*
四国	-1.5	-0.0	2か月ぶりマイナス
九州	-0.4	-0.0	6か月ぶりマイナス

(注1) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

(注2) 2023年2月より、北海道の1店舗を地区区分10都市の札幌に合算した。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は家庭用品を除く4品目でプラスとなった。その他の品目は、化粧品が16か月連続、美術・宝飾・貴金属が29か月連続でプラスとなったほか、子供服が4か月ぶりにプラスとなった一方、家具が3か月連続、生鮮食品が2か月ぶりにマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	7.0	—	16か月連続プラス
紳士服・洋品	5.8	0.3	7か月連続プラス
婦人服・洋品	11.6	2.0	16か月連続プラス
子供服・洋品	1.3	0.0	4か月ぶりプラス
その他衣料品	-4.3	-0.1	2か月連続マイナス
衣料品	8.8	2.3	16か月連続プラス
身のまわり品	10.4	1.6	21か月連続プラス
化粧品	18.7	1.4	16か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	8.7	0.8	29か月連続プラス*
その他雑貨	4.3	0.1	15か月連続プラス*
雑貨	12.0	2.3	21か月連続プラス
家具	-2.4	-0.0	3か月連続マイナス
家電	9.0	0.0	9か月連続プラス
その他家庭用品	-3.4	-0.1	4か月連続マイナス
家庭用品	-2.2	-0.1	3か月連続マイナス
生鮮食品	-0.9	-0.0	2か月ぶりマイナス*
菓子	3.7	0.3	22か月連続プラス*
惣菜	2.7	0.2	22か月連続プラス*
その他食料品	-1.5	-0.2	6か月ぶりマイナス*
食料品	0.9	0.3	11か月連続プラス
食堂喫茶	9.7	0.2	16か月連続プラス
サービス	4.9	0.0	4か月ぶりプラス
その他	13.7	0.4	15か月連続プラス
商品券	-7.9	-0.2	4か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

2023年6月 東京地区百貨店売上高概況

2023年7月24日

I. 概 況

1. 売上高総額	1, 360億円余
2. 前年同月比(増減率)	10.0%(22か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭9.9%(90.6%)：非店頭11.4%(9.4%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (2023年5月対比±0店)
5. 総店舗面積	729,599㎡ (前年同月比：-8.4%)
6. 総従業員数	13,961人 (前年同月比：-6.8%)
7. 3か月移動平均値	11-1月 11.0%、12-2月 14.6%、1-3月 17.2%、 2-4月 14.5%、3-5月 10.7%、4-6月 9.8%

[参考] 2022年6月の売上高増減率は13.8%

【特 徴】

- (1) 6月の東京地区は、売上高10.0%増、入店客数4.5%増と共にプラスとなった。外出機会の増加やインバウンド売上の高伸、好調が続く高付加価値商材の増勢の他、月後半の気温上昇に伴い夏物商材が好調に推移したことで、前月より伸び幅を広げ(2.0ポイント)二桁増となった。2019年比では売上高1.7%減と回復基調は継続している。
- (2) 商品別では、主要5品目全てプラスとなった。主力の衣料品(12.6%増/21か月連続)は、外出気運の高まりから盛夏商材が順調に稼働し、6か月連続で二桁増を記録した。紳士服・洋品ではジャケット、シャツ等のビジネスアイテムやクールビズ関連商材、婦人服・洋品ではワンピースや羽織物等が好調に推移した他、雨傘、日傘、帽子等も伸長した。
- (3) 身のまわり品(13.4%増/22か月連続)は、ラグジュアリーブランドが依然好調を維持している他、天候与件からサンダルやサングラス等盛夏アイテムが良く動いた。インバウンド需要や国内客の旅行回帰でスーツケースも好調に推移した。雑貨(15.9%増/22か月連続)は、化粧品が32.7%増と高伸し、UV関連商品やヘアケアアイテム、メンズコスメ等に動きが見られた他、インバウンド需要も高まっている。美術・宝飾・貴金属は時計の入荷減による品薄等マイナス与件がある一方、宝飾が好調で2か月ぶりにプラスに転じた。
- (4) 食料品(2.4%増/2か月連続)は、手土産需要から菓子が好調で、2019年比でも9.7%増とコロナ前を上回った。中元ギフトではゼリーやアイス等冷菓デザートに動きが見られた。また、客数増に伴いレストランの利用客が増加し売上を伸ばしている。
- (5) 7月中間段階の商況は、前年比12.0%増(7/17時点)で推移している。コロナ前の2019年比でも6.9%増と、回復基調が鮮明になってきている。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 30.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見える傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
 - ①増加した：16店、②変化なし：0店、③減少した：2店
- (3) 6月歳時記(父の日、中元)の売上(同上/有効回答数12店舗)
 - ①増加した：3店、②変化なし：8店、③減少した：1店

東京地区百貨店 売上高速報 2023年6月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	136,056,773	100.0	10.0
紳士服・洋品	9,354,547	6.9	11.6
婦人服・洋品	19,935,413	14.7	15.3
子供服・洋品	1,521,485	1.1	8.2
その他衣料品	1,581,167	1.2	-6.4
衣 料 品	32,392,612	23.8	12.6
身のまわり品	22,950,902	16.9	13.4
化粧品	12,630,241	9.3	32.7
美術・宝飾・貴金属	13,865,033	10.2	5.5
その他雑貨	4,060,400	3.0	9.4
雑 貨	30,555,674	22.5	15.9
家 具	1,223,785	0.9	4.6
家 電	871,924	0.6	8.0
その他家庭用品	2,992,540	2.2	-1.4
家 庭 用 品	5,088,249	3.7	1.5
生 鮮 食 品	4,831,593	3.6	1.6
菓 子	11,055,360	8.1	8.5
惣 菜	7,113,855	5.2	5.0
その他食料品	14,094,137	10.4	-2.9
食 料 品	37,094,945	27.3	2.4
食 堂 喫 茶	2,411,306	1.8	9.9
サ ー ビ ス	2,037,248	1.5	13.0
そ の 他	3,525,837	2.6	15.9

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	2,942,254 千円	-7.6
従 業 員 数	13,961 人	-6.8
店 舗 面 積	729,599 m ²	-8.4

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は全てプラスとなり、衣料品、身のまわり品、雑貨は二桁増となった。
その他の品目は、婦人服・洋品、化粧品が22か月連続、生鮮食品が9か月ぶり、惣菜が4か月ぶりにプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	10.0	—	22か月連続プラス
紳士服・洋品	11.6	0.8	20か月連続プラス
婦人服・洋品	15.3	2.1	22か月連続プラス
子供服・洋品	8.2	0.1	12か月連続プラス
その他衣料品	-6.4	-0.1	2か月連続マイナス
衣料品	12.6	2.9	21か月連続プラス
身のまわり品	13.4	2.2	22か月連続プラス
化粧品	32.7	2.5	22か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	5.5	0.6	2か月ぶりプラス*
その他雑貨	9.4	0.3	16か月連続プラス*
雑貨	15.9	3.4	22か月連続プラス
家具	4.6	0.0	3か月ぶりプラス
家電	8.0	0.1	9か月連続プラス
その他家庭用品	-1.4	-0.0	3か月連続マイナス
家庭用品	1.5	0.1	6か月連続プラス
生鮮食品	1.6	0.1	9か月ぶりプラス*
菓子	8.5	0.7	28か月連続プラス*
惣菜	5.0	0.3	4か月ぶりプラス*
その他食料品	-2.9	-0.3	4か月連続マイナス*
食料品	2.4	0.7	2か月連続プラス
食堂喫茶	9.9	0.2	16か月連続プラス
サービス	13.0	0.2	2か月連続プラス
その他	15.9	0.4	5か月連続プラス
商品券	-7.6	-0.2	4か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>